

【 2018アジアジュニア選手権 】

2018年7月16日～7月26日 オマーン・サラール

試合結果報告 7 月 20 日 (金)

J P N	VS	I R N(イラン)
9	前半	5
10	後半	14
19	合計	19

個人得点

名前	前半	後半	7MTC	合計
平尾 克己				
高野 颯太	1	1		2
末岡 拓美				
阿部 奎太	1			1
徳田 廉之介	2	2	1	5
村木 幸輝				
堀田 陽大				
矢野 世人	1	3		4
櫻井 睦哉	3	2		5
中村 光				
朝野 翔一郎				
中村 翼				
川崎 駿		2		2
大杉 拓巳				
Kai Klampt				
磯田 健太				
合計	8	10	1	19

戦評

メインラウンド初戦の相手は、予選ラウンドグループD1位のイラン。なんとしても勝利を手にしたい日本の先発メンバーは、左ウイングから矢野、阿部、末岡、徳田、櫻井、高野、中村(光)。開始4分41秒相手に先制点を許すも、試合序盤は高野と大杉を中心とした日本のDFが機能し、日本ペースでゲームが進む。13分10秒、4-1と日本が3点リードしたところでイランはチームタイムアウトを請求し立て直しを図るが、流れは大きく変わらず、9-5と日本リードで前半が終了。

後半に入っても日本のDFは機能した。また、OFにおいては末岡の巧みなパスワークや川崎の突破を起点として、ノーマークシュートの場面は非常に多く作ることができていた。しかし、韓国戦と同様、確実に決めておきたいシュートをことごとく相手GKに止められ、20分50秒には15-15とイランに追いつかれてしまう。さらに、2人の退場者が出た間に連続失点を許し、27分20秒には16-19と3点のリードを許す。ここまでかと思われたが、相手にオールコートマンツーマンを仕掛けてボールを奪う策が的中し、残り1分で矢野が速攻で3連取し、19-19の同点で試合が終了した。

シュートの精度に課題の残る試合となったが、最後まで勝利を諦めなかった選手たちの姿は誇らしいものであった。

報告記入者 :

船木 浩斗